

# 追悼

日本教職員バドミントン連盟  
理事長 高橋 英夫

この度の突然の訃報、驚きました。

前田耕作先生はとにかく真面目で実直、そして豪胆で人情味の大変厚いお方でした。55歳の時分に腎臓疾患に罹って以来26年間、週3度の透析を欠かすことなくお受けになり、食事や生活習慣にも留意するなど、ご自身の健康には人一倍気を遣われていらしただけに、とても残念でなりません。

現在、この私が日本のバドミントン界で一端の仕事ができるようになったのは、ひとえに前田先生のご支援とご尽力を賜ったゆえに他ならぬだけ、その悔しさも一入です。1986年、当時36歳の若輩者であった私を、前田先生は東京都高体連バドミントン専門部委員長に抜擢してくださったことに始まり、当時の日本バドミントン協会へのBWF国際審判員候補者としてご推薦や、1997年には現（公財）日本バドミントン協会の理事就任に向けた強い後押しなど、多岐に渡る面で陰から応援してくださいました。2005年の日本教職員バドミントン連盟理事長就任に私をご推挙くださったのも、前田先生その人でした。私がこの世界で今こうしてさまざまな職務に当たらせてもらえるその礎を築いてくださったことだけでなく、辛く苦しい時期にあったときには嫌な顔一つせず、いつも相談に乗っていただいていたこと、只々、感謝、感謝です。

遠い昔のことになりますが、私が当時の先生の勤務先であった日大鶴ヶ丘高校にお邪魔した折、体育館にてダブルスの試合を楽しませていただいたことも、いい思い出となっております。大抵は前田・金崎組対市村（故人）・高橋組での対戦でした。1試合終わるごと、前田先生は必ずと言っていいほど「高橋先生、もう1ゲーム、もう1ゲーム（やりましょう）」と疲れ知らずに要求なさるので、「参ったなあ」なんて苦笑しつつも応えていたのが、つい昨日のことのようです。勝ち負けでなく、純粹にそして貪欲にバドミントンを楽しみたい、そういうお心の持ち主でありました。

私の心の中の強い後ろ盾をなくしたようで、正直いまだ実感の湧かないところであります。とはいえ、前田先生の一番弟子を自認している私としては、いつまでもくよくよしているわけにはまいりません。前田先生がバドミントン界に賭け続けた情熱、その一遍であろうともこれを受け継ぎ、今後も日本のバドミントン界発展の為、自分なりに努力して参りたい所存です。先生どうか、天国で神澤さんや今北さん達同志とバドミントン談義に花を咲かせ、今しばらくは私どもを見守ってください。

本当に、長い間お世話になりました。ありがとうございました。

